

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和6年2月22日

事業所名 戸次なごみ園

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			園庭や個室などひとりひとりの特性に合わせて分散できる十分なスペースがあり、室内外問わずのびのび過ごすことができる。状況に応じて適切な環境を保つように心掛けている。	個々の特性やその日の利用人数に応じて、互いに良好な関係を保ちつつ思いきり遊んだり安心して過ごすことができるよう、使い分けていく。
	2	職員の配置数は適切である	100%			職員が休んでも対応できるよう、多めの職員を配置している。また、マンツーマン対応など丁寧に療育ができるようにしている。	基準より多くの職員を配置し、個別対応も含めて質の高い手厚い支援を提供できる体制を整えている。個々の遊びや動きを十分に満たせるよう、よりしっかりと子どもたちの動きに合わせて関わっていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%			室内はバリアフリーで、車椅子でも対応できるトイレも完備し、玄関にはスロープも整備している。刺激を少なくする為に室内の装飾は必要以上に行わず、見通しが持てるように活動内容を絵カード等でホワイトボードに掲示する程度。特性に応じて、絵カードや写真、場面転換時のタイマーや音楽を流す等視覚的配慮を行い、準備物も都度変更している。	柱の角等危険な箇所には安全ガードを施しているが子どもが気にしてはがしてしまうことがある為、その都度確認して対処する。苦手の玩具が目につけることがないように片付けておく等の配慮や工夫も行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%			療育活動後は毎回換気と清掃を実施。特に利用児がよく触れる場所や物等は念入りに消毒している。清掃場所についてはチェックシートを活用して、普段できない場所等定期的に清掃するよう努めている。使用した物は都度元に戻す等整理整頓を心掛けている。利用児の特性に応じて準備物を変え、思いきり遊びを楽しんでもらえるように工夫している。	柱の角等危険な箇所には安全ガードを施しているが子どもが気にしてはがしてしまうことがある為、その都度確認して対処する。苦手の玩具が目につけることがないように片付けておく等の配慮や工夫も行っていく。感染症対策の為に室内の換気や消毒、特に利用児が触れる場所や物の消毒は徹底する。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%			職員会議やミーティングで利用児への支援の振り返りを行い、気づいた点や改善点を検討している。全職員が発言できるような雰囲気や関係作りに努め、目標に対して共通認識を持って業務に取り組めるようにしている。	自己評価表アンケートで得た意見を踏まえてできるだけ迅速に前向きに検討し、対処していく。利用児の動きに配慮しながら、業務の見直しをその都度行う。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
業務改善	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			いただいた内容については職員間で周知し、共通理解を行っている。分析・検討・改善までできるかぎり迅速に対応できるよう努めている。その都度保護者からの意向も検討し、丁寧に詳しく説明を行っている。	自己評価表アンケートで得た意見を踏まえて検討し、可能な限り迅速かつ前向きに対処していく。意向に関して全面的に改善が難しい場合でもできる部分については具体的に提示し、丁寧な説明を行っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			集計してホームページや事業所内掲示、園だよりやコドモンで公表している。	公表結果を公開することで、意向やニーズを把握し迅速に対応することで、今後もよりよい運営を築いていく。意見等をいただいた際は、全職員で周知して検討していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	71%	29%		外部評価は実施はしていないが、法人全体で第三者委員は設置しており、万が一、何かあった時には迅速かつ適切に対応できる体制は整えている。	第三者による外部評価は、実地指導を受けた内容を全職員で十分検討し、改善する。第三者による外部評価としてはまだ実施していないが、他事業所の評価の情報共有をしながら全職員で十分検討し、改善していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			法人全体の研修以外に、事業所内研修も行っている。法人内研修や事業所内研修をはじめ、外部研修にできるだけ参加できる機会を設けている。自身の休みを利用して取り組んでいることもある。参加した研修を事業所に持ち帰って周囲する等も行っている。	事業所内の研修だけにとどまらず、外部研修にも意識して、当事業所にとって必要な内容の研修をできる限り受講できるようにしていく。今まで参加できていない外部研修にも積極的に参加できるようにしていく。また、感染症対策のZoom会議にも対応していく。
適切な支援の提	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%			日々の送迎や都度の電話相談等にて保護者からの聞き取りをして、取り組み計画を作成している。子どもとのやりとりや保護者からの聞き取りから意向やニーズを把握し、課題や伸ばしていきたいところを一緒に確認しながら話し合っ計画を作成している。	ニーズや課題を整理・分析をして、具体的に取り組む児童発達支援計画を明確に伝えていくようにする。今後も職員間で日々の支援の振り返りを行い、課題やニーズを検証して利用計画に反映させるようにする。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
供	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	71%	29%		個々に応じて、保育経過記録表などのアセスメントツールを利用しながら取り組んでいる。アセスメントシートや発達検査を基にケース会議にて支援の方向性や具体的な支援方法を検討して実施している。	保育経過5領域記録表の実践に取り組み、その子の成長を検証していく。また、療育センターなどで検査した発達検査（WISCなど）の結果も踏まえて、今後の支援に取り組んでいく。今後も職員間で日々の支援の振り返りを行い、課題やニーズを検証して対応方法を検討していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%			1人ひとりの特性や能力、家庭環境に合わせて、目標や支援内容を検討し、個別支援計画を作成している。児童発達支援ガイドラインも職員が常に確認できるようにファイルを設置し、その都度必要に応じて、会議等で確認するようにしている。	保護者の意向も大切にしつつ、子どもの状態や様子を客観的に見て課題は何か？今後育んでいきたい部分はどこか？等も盛り込んでいる。ガイドラインの項目は全職員でが目を通して踏まえているが、地域支援の提供は不十分であり、工夫が必要と考えている。また、異動してきた職員への周知を図ることが課題である。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%			児童発達支援計画の内容は職員間で周知し、確認しながら日々の支援に取り組んでいる。また、支援の振り返りを大切に、改善点を確認している。	利用児の実態に応じて、毎日のミーティングや職員会議で対応ポイントや気をつける点等を含め、児童発達支援計画の内容を確認しながら支援を行っていく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			毎月職員会議にて、翌月の活動プログラムの立案・計画に取り組んでいる。季節感や利用児の個性に即した内容になるように気をつけている。	活動の細かい部分については利用児で話し合ってもらう機会を設ける等意欲的に(積極的に)参加できるような工夫も試みた。今後、マンネリ化しないようないろいろな情報や知識を駆使して、季節感や子どもの個性や能力、好きなことに応じて内容を展開していく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			前年度実施分を参考に、利用児の個性や好きなもの・実態等に即した内容をベースに、細かいところで変化をつけたり等固定化しないように意識して実施している。	利用児の特性に応じて、充実した満足できる活動プログラムを設定していく。新たな活動についても積極的に取り組むようにしたい。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	100%			個別活動と集団活動のメリハリをつけ、個々の発達段階に応じ、無理のない範囲で、その子に合った支援で取り組んでいる。集団活動への参加が苦手な子どもには、様子を見ながらスモールステップで取り組んでいる。	個別活動では個々の能力や特性、好きなものをよく観察して把握し、本児が興味のある活動や遊びを提供していく。集団活動では季節感を感じる活動を取り入れているが、利用児の意欲や能力に加えその時の状況(例：疲労感等)を踏まえて活動の修正を図る等工夫をして取り組んでいく。特に、細かい作業等指先を使う制作活動は、個々の状態に応じて工程を設定する等配慮する。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			毎朝のミーティングでその日の流れや注意ポイント等を必ず確認している。また、毎日倫理綱領を唱和し、支援の向上に努めている。	利用児の動きや傾向についてある程度想定し、いくつかのパターンを考えて準備しておく。また、担当や配置等職員の動きもできるだけ詳細に設定する。登園後も利用児の様子や状態を見ながら関わり等を考え、臨機応変に対応できるように今後も心がけていく。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			日々の支援を振り返り、内容を業務に記入している。また、職員全員が回覧し、押印確認をしている。	支援終了後の送迎や清掃等の関係で就業時間終了までの時間が少なく、支援の振り返りに十分な時間が確保できにくい為、翌朝のミーティングにて振り返りの時間を設けている。利用児の様子だけではなく、どのような支援を提供したのか？結果はどうだったか？等を話し合う。また、良かったこと、まだ工夫できそうなこと、上手いかなければ次はどうしてみる？等も検討していく。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			毎日必ず個別記録をパソコンで入力している。その日の利用児の様子に加えて、具体的な声掛けや支援方法等も総裁に記録し、後からでも振り返ることができるようにしている。ケース検討会議では、記録の整理をして、今後の対応に活かしている。	支援記録は必ず記入するようにしているが、支援する場面や課題行動に対する支援者のアプローチ等、今後の支援に繋げることができるよう、記録の残し方等についても引き続き検証していく。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%			6か月ごとの見直し（モニタリング）を行い、利用児のその時の状態や状況、課題に合った内容で作成し直している。送迎時等に家庭からも聴き取りを行っている。	利用児の成長と共に、モニタリングをより深めていくようにする。その際、「今その子に何が必要なのか？」ということを全職員で意見を出して合って検証していく。深堀していくと同時に、個々の特性についてもさらに認識を深めていくよう努める。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			児童発達管理責任者が原則出席するようにしているが、状況に応じて、療育現場で主に関わっている職員が、あるいは複数で出席するようにしている。	状況や内容に応じて精通した職員が参画しているが、他職員からも情報を聞き取ったり個別支援記録を読み返す等してより詳細な様子を伝え、本児の状態を共有するように努める。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%			保育所や幼稚園とは、保育所等訪問支援事業などを通して連携している。また、地域の保健師とも情報共有しながら、必要な保護者には、臨床心理士と話ができる場を設定している。	今後も関係機関と連携しながら、丁寧な情報共有に努め、利用児の実態に即した支援を提供していく。必要に応じて、関係機関の職員(例：保育園の先生)に児発利用時の様子を直接みてもらう機会もあった為今後も継続していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	86%		14%	現在、対象児はいない。地域の医療機関と協力契約書を交わしており、緊急時の対応の体制をとっている。	現在、対象児はいないが、利用の際には、当法人の看護師チームにも相談しながら取り組みたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	86%		14%	現在、対象児はいない。アセスメントシートに医療機関等の情報を記入してもらい、いつでも対応できるような体制をとっている。	現在、対象児はいないが、利用の際には、当法人の看護師チームにも相談しながら取り組みたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			移行する際には必ず情報共有の場を設けるようにしており、詳細に丁寧に行うよう努めている。	関係機関とは連絡をとりやすい関係作りに努め、必要な情報を迅速に共有できるように心掛けていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			就学前には、各関係機関と必ず支援会議を行い、新しい環境にスムーズに適應できるよう、子どもの能力や特性に応じた支援の統一を図るよう努めている。	関係機関とは連絡をとりやすい関係作りに努め、必要な情報を迅速に共有できるように心掛けていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%			必要に応じて関係機関と連絡を取り合ったり、支援会議等に参加することで情報共有や意見交換をし、統一した支援の提供に努めている。	研修計画を見直し、もう少し幅広い研修内容を検討し、日程等にも工夫しながら取り組む。発達障がい者支援センター等への相談、SV派遣の利用等から助言をもらったり、講師として来園してもらっての研修開催を行っているため、今後も継続していきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%			法人内の保育園と一緒に地域の畑で芋掘りをしたり、地域の公園に出掛けて一緒に遊具で遊んだり等できた。	感染症拡大防止の観点から積極的に取り組めてはいないが、今後は状況に応じて交流ができるような形を検討していきたいと思う。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	57%	29%	14%	案内のある自立支援協議会等の研修には、参加するようにしている。また、法人他事業所とも連携して情報共有している。	現段階では、地域の自立支援協議会会議には参加できていないが、会議に参加している当法人他事業所から福祉情報を得るようにしている。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			送迎時や個別面談等を通して、利用児の状況について共通理解を持つようにしている。	送迎時にゆっくり話ができない場合は後程連絡して状況をお伝えして共通理解を図っている。気になることがある時はいつでも連絡しやすい関係作りに努め、いただいた内容については迅速に臨機応変に対応するよう心がけている。必要に応じて他事業所や相談支援事業所とも連絡を取り、連携していく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	86%	14%		年1回の保護者会では互いに話をしたり情報共有を行う等大切にしている。家庭から相談があった際等に随時支援を行い、一緒に考えたり支援方法を伝えたりしている。	ペアレント・トレーニングやピアカウンセリングを視野に保護者会開催などに取り組んでいるが、ペアプログラムを学んだ職員もいる為今後はそのことも活かしていけるよう検討していく。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			利用契約時にゆっくりと時間をとり、わかりやすく丁寧に説明している。口頭説明だけでなく、実際に事業所を見学してもらったりパンフレットを見てもらう等して確認してもらっている。	運営規程や利用者負担等については、その内容に変更がある場合は都度迅速にお伝えしている。支援の内容については自宅等での様子や対応も踏まえてその方法を検討する等話し合っ進めているので今後もそのようにしていく。家庭からの質問等には丁寧に説明を行い、要望等に応じられない場合でも理由を添えて理解していただけるよう真摯に対応していく。
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%			利用児の様子を伝えながらどのような根拠に基づいて支援計画を作成しているか等内容をわかりやすく丁寧に説明し、家庭に持ち帰って再度内容を確認していただいた上で同意を得るようにしている。ガイドラインを職員に周知するようにしているが、随時新職員にも周知していくようにしている。	児童発達支援ガイドラインについての説明は今後も行っていくが、新規利用の方への対応は不十分な面も見られる為見直し、しっかり伝えていく。異動してきた職員への周知も徹底する。
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			児童発達管理責任者や主任保育士を中心に、保護者の相談に応じ、保護者の不安を軽減できるように取り組んでいる。職員と保護者との関係性を大切に、今後も話しやすい環境を整えていくよう努める。	子育ての悩みについては、まずはゆっくり話を聴き、具体的なアドバイスを伝えたり対応可能な方法を一緒に考える等しながら可能な限り迅速に対応していく。必要に応じて臨床心理士との面談設定や専門機関を紹介する等対応する。職員と保護者との関係性を大切にして、話しやすい環境を整える等今後も心がけていく。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	86%	14%		毎年、梨狩り遠足や保護者会を開催し、保護者同士の交流が図れる機会を設けている。	保護者会を通して保護者同士が関係を作ったり交流出来たら良いと思っているので、今後も開催を継続したい（感染症拡大の状況もみながら）。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			利用契約時に苦情解決に関する説明を行っている。法人や事業所として、苦情があった場合の体制も整えている。療育に関するニーズについては職員間で検討し、保護者の理解を得た後対応している。	これまで大きな苦情をいただいたことはないが、家庭からの話はいつでも真摯に受け止め、検討を重ねて迅速対応に努めてきた。今後もより質の高い支援の提供ができるよう、やりとりしながら良い関係を築いていけるよう努める。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			毎月園だよりを発行し、コドモンでの発信も行っている。園での過ごし方や活動の様子を写真で伝えている。また、子育てに参考となる資料も、その都度配布するようにしている。	楽しみにしてくれている利用児や保護者もたくさんいるので、今後も継続する。また、より詳しく多くの子どもたちの様子が伝えられるよう、動画の活動等も検討していきたい。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	100%			個人情報の取り扱いについては、利用契約時に同意書を交わし、その都度保護者に確認しながら取り組んでいる。また、書類は施錠付きの棚に収納している。	個人情報となる内容に相当するかを全職員で検討しながら今後も十分注意していきたいと考える。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			利用児の特性に応じて、絵カードやスケジュールボード、写真や動画等を活用して視覚的にわかりやすく伝えている。また、お絵描きなどボードに書いてやりとりすることもしている。	保護者との意思の疎通や情報伝達に関しては、電話や面談等直接お伝えして捉え違いやズレ等を防ぐよう努めている。より詳細な内容については、難しい言葉や専門用語等は使わずわかりやすい言葉で伝える等今後もより丁寧な対応をしていきたいと考える。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	29%	57%	14%	モビリティバス等公共の乗り物を利用したり、芋掘りに誘っていただけたり、地域資源を利用する等して交流できる機会がある。	事業所自体に地域住民を招待するところまではできていない。小さな行事でもできることはないか？等検討・工夫していきたい。
非常時	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	86%	14%		各マニュアルは保護者会で説明を行い周知している。新規利用の方には契約時に説明している。	今後も保護者会等を通して丁寧な説明を継続し、避難訓練も実態に即して工夫しながら取り組んでいく。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
時 等 の 対 応	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	100%			年1回実施している。備 蓄品の準備もしている。 消防点検もきちんと行 い、整備できている。	避難訓練を実施しているが子どもに よっては嫌な体験として負担をかけて しまうことがあるため、配慮・工夫し ながら今後も継続する。紙芝居を用い て説明する等視覚支援を用いてわかり やすく伝え、避難行動がスムーズに行 えるようにしたい。保護者への周知不 足については検討して改善していき たい。職員は、当法人災害訓練研修にも 参加して、必要な知識と技術を身に つけるようにしている。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の こどもの状況を確認している	100%			利用開始時にアセスメン トや面談にて、服薬やて んかん、アレルギー等に ついては確認を行っている。また、保護者からの 情報をその都度職員間で 確認している。	年齢に応じた健康管理（予防接種な ど）や服薬状況について今後も保護者 と連絡を密に対応していきたいと考 える。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師 の指示書に基づく対応がされている	100%			食物アレルギーのある利 用児には、利用開始時 のアセスメントや面談等 で確認している。保護者と 密に情報共有ややりとり を行い、主治医の指示に 基づいて対応している。	食べ物を提供する時は毎回食べ物アレ ルギーがある子どもについて確認す るようにしているが、食材の成分等の確 認もきちんと行っていく。相談や知識 については法人看護師と連携しながら 取り組んでいきたい。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共 有している	100%			事例が起こった場合は報 告書の提出と業務日誌へ の記録記入することで、 職員間で共有している。 ミーティングや職員会議 でも確認し、同じことが ないよう努めている。	ヒヤリハットがあった場合報告書を提 出してもらおうが、会議での振り返りを より綿密にしていきたい。また、時間 の経過とともに忘れてしまうことも少 なくない為毎朝のミーティングでは気 をつけることや対応をしっかり確認し てその日の支援にあたることを継続す る。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	100%			虐待防止チェックシ ートを年3回実施し、日常 の支援の振り返りを行っ ている。法人内研修や事 業所内研修で虐待防止や 身体拘束に関する研修を 開催している。	虐待チェックシートについては各職員 の結果を踏まえて職員会議で支援を見 直し、より適切な支援の提供に繋げて いく。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行う かについて、組織的に決定し、子どもや保護 者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児 童発達支援計画に記載している	100%			安全面での配慮につい て、放課後等デイサービ ス支援計画に記載。内容 について保護者に説明し て同意を得ている。	身体拘束についての考え方（3要件な ど）については、常に職員間で確認し ているが、どのように対応するのがよ いか今後もより慎重に検討していく。 パニック時の対応については個別支援 記録に残し、送迎時等で必ず保護者に 報告している。

○この「児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。